



「山川異域、風月同日」



国籍	中国
職種	電子機器組立て
実習実施者	パナソニックライフソリューションズ電材三重株式会社
監理団体	ELC 事業協同組合

丛 世 斌
CONG SHIBIN

2020年の春節の時期に私は3年間の技能実習を終え、一時帰国をしました。少し羽を伸ばしてまたすぐに技能実習3号として日本に戻る予定が、まさかコロナウイルスによってとても長い休暇となってしまうと思いませんでした。最初は「ただの風邪ウイルスだ」と思っていたのですが、千人単位で増える感染者を見てようやく自分の間違いに気がつきました。

当時日本にいた私は中国の家族や友達からの電話で、中国ではマスクが薬局やスーパー、ネットでも売り切れて値段も20倍近くに上がってひどい状況だと知りました。日本ではまだマスクを買うことができたので私は家族に日本からマスクを送ろうと考えました。ある日ドラッグストアで店長さんが、「最近マスクを買う人が多くて在庫が少なくなるので今は一人2つつしか売れません。」と言いましたが、私は中国の事情を説明して、「中国にたくさん送りたいのです。」と言ったら店長さんは販売数の制限をなくしてくれて、「明日の開店前9時半に先に来て、頑張ってるね。」と言ってくれました。また、会計を終えて帰る時、日本人のおじさんが後ろから私の肩をたたいて、「すみません、

あなたは中国人ですか？」と言ったので私がうなずくと、そのおじさんは自分が買ったばかりのマスクを私に渡して、「このマスクを受け取ってください。」と言い、さらに慣れない中国語で「武漢がんばれ！」と言ってくれました。彼の優しい顔は今でも私の目の前に浮かんで、忘れることはできません。日本人の優しさを感じました。

その後中国での疫病は安定しつつありましたが、日本では感染が爆発し、日本でもマスクの入手が困難になり始めました。店には長い行列ができました。私は中国の友達にマスクを送ってもらいました。マスクが海を渡って日本に届くと、私は日本の友達やお世話になった隣人にそれらを配りました。

新型コロナの発生では世界中の多くの国が中国に大きな助けを与えてくれました。発生の初期には日本のネットユーザーたちが武漢を応援するメッセージで中国を励ましてくれました。日本の大通りや路地、ドラッグストアには中国語で「武漢がんばれ！」と書いてありました。日本の多くの企業や政府はマスク、防護服、ゴーグルなどの物資を積極的に寄付して中国を支えてくれました。

日本が武漢に医療物資を寄付した際、中国の詩経にある「山川異域、風月同日」（住む場所は異なろうとも風月の営みは同じ空の下でつながっている）を引用しました。日中両国の絶え間ない交流を体現したこの言葉は、1300年の時を超えて再び私たちの前に現れました。中国と苦労を共にしたいという友情は多くの中国人を感動させました。私は中国と日本の深い友好関係と新型コロナウイルスの収束を強く願っています。